

はじめまして、今年4月から保健福祉課地域包括支援センターで働くことになりました社会福祉士の澁谷昌広と申します。地元出身かつ支援センターの立場から、町のために貢献できるよう頑張りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

さて、今回は「認知症」をテーマにお話したいと思います。日本の認知症高齢者は、2012年に462万人（65歳以上高齢者の約7人に1人）、2025年には約700万人（65歳以上高齢者の約5人に1人）に達することが見込まれています。

◎認知症有病率の将来推計

年	平成24年 (2012)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成52年 (2040)	平成62年 (2050)	平成72年 (2060)
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計 人数/(率)	462万人 15.0%	517万人 15.7%	602万人 17.2%	675万人 19.0%	744万人 20.8%	802万人 21.4%	797万人 21.8%	850万人 25.3%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計 人数/(率)		525万人 16.0%	631万人 18.0%	730万人 20.6%	830万人 23.2%	953万人 25.4%	1016万人 27.8%	1154万人 34.3%

「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業九州大学二宮教授）による速報値

この数値から反映されるように、最近ではテレビなどで「認知症」をテーマに取り上げた様々な内容が放送されております。

◆認知症によって起きる問題

「認知症」という病気は、本人が認識している世界と現実の世界との間にズレが生じ、それを何とか埋めようとする本人の行動がトラブルにつながります。このようなリスクが、認知症の本人のみならず、その家族や近隣住民に対しても大きく影響する可能性が高いのです。

特に事件や事故が起こり得る代表的な症状として「徘徊」があります。

平成27年6月の警察庁の調べによりますと、全国の認知症による行方不明届が出された件数は、平成24年で9,607件、平成25年10,322件、平成26年10,783件と年々増加しております。

あくまでも届出されたもののみであり、実際の件数はこれを上回っていることは言うまでもありません。また、未だ所在不明者がいるほか、保護された方の住所、氏名が不明という現状もあるそうです。

記憶に新しい報道としては、2007年10月に愛知県で認知症高齢者によるJR列車事故での最高裁判決となった事件、2014年5月には東京都江東区に住む認知症の女性が行方不明となり、群馬県で保護された事件と、この2つの事件は日本社会に新たな衝撃を与えました。

上ノ国町でも、認知症高齢者が徘徊し行方不明になったという一報を受け、地域包括支援センター・担当ケアマネジャー・警察・地域住民の協力で捜索したこともあり、結果として無事に保護されましたが、一步遅ければ死亡事故につながる恐れが十分にありました。

認知症高齢者の増加に伴い、このような事例がますます増えていく可能性が十分にあります。

◆もしもに備えて・・・認知症への対策

「認知症」は誰にでもなり得る病気であり、いつ自分も患うかわかりません。また、その対応・処遇については答えもありません。何気ない生活のなかで「認知症」について認識していくことが大切であると思います。

「もし自分や家族が認知症になってしまったら…」と元気なうちにこれからの生活について考え、家族や近隣の方々など、今後について相談・協力しあいながら、各々の生活スタイルに合わせた備えをしておく必要があると思います。